

JSN オランダ連携事業「Game Changer ～パラスポーツで社会を変える～」 西東京市 平成 29 年度実績報告

1 実施事業

事業名	第 17 回西東京市民まつり スポーツ振興課ブース
日時	平成 29 年 11 月 12 日（日）午前 9 時から午後 3 時 30 分まで
場所	西東京いこいの森公園
事業 関係者	オランダパラアスリート ケリー・ファン・ゾン 選手（卓球） オランダオリンピック委員会・スポーツ連合 リタ・ファン・ドリエル 氏 シチズン時計卓球部 伊藤 誠 監督、森田 侑樹 選手、軽部 隆介 選手
目的	キックオフイベントとして、本事業を市民に広く周知する。 オランダのパラアスリートとの交流やデモンストレーションを通して障害者の理解を図る。
概要	◆スケジュールの確認 みどり学童クラブの子どもたちが前日までにイラストを描いた横断幕で出迎えた。  ◆スポーツ交流 ボッチャ（ココスポ東伏見ブース）、卓球、テーブルボッチャ、けん玉（スポーツ振興課ブース）などで、来場者と交流した。主に子どもとの交流が多かったが、付き添いの保護者や親子との交流などもあった。  ◆シチズン時計卓球部との公開練習 野外ステージでのパフォーマンスに向けて、ステージでどのようなパフォーマンスができるかを調整するため、シチズン時計卓球部と公開練習を行った。ギャラリーも多く集まった。 

	◆野外ステージにてパフォーマンス リタ氏の投げかけに応じる形式でケリー選手の経験をお話いただいた。 後半は、シチズン時計卓球部軽部選手とのラリー、軽部選手・森田選手とケリー選手が対戦し、速いラリーやケリー選手のショットが見られるレシーブを打つなどした。 観客席ではオランダと日本の国旗を振って歓迎した。	
参加人数	ケリー選手との交流、パネル展示見学 約 300 人 ステージ観覧 約 500 人 公開練習見学 約 50 人	
参加者の声	（連携事業に関する意見として） ・機会があればまた見てみたい ・素晴らしい活動だと思う ・いろいろな国と交流して日本にも文化を根付かせてほしい ・連携の継続と展開をぜひ	

事業名	パラスポ☆チャレンジ パラアスリートと一緒にスポーツを楽しもう！		
日時	平成 29 年 12 月 9 日（土）午前 10 時から午後 0 時 30 分まで		
場所	きらっと		
事業 関係者	ウィルチェアーラグビー 山口貴久選手、渡邊翔太選手、山口徹朗選手、今野匡人選手、宮野竜一選手、各務珠美選手 よしもと芸人 はんにや金田、インポッシブル、ジェラードン		
目的	パラリンピック種目のアスリートとの交流や体験を通じて、パラアスリートやパラスポーツの理解を図る		
概要	◆デモンストレーション及び体験会 体験会では、車椅子に実際に乗って、パラアスリートに車椅子の扱い方を教わりながら、直線、コーナー、タックルの 3 種類を体験した。 ◆ボッチャ、フライングディスク体験コーナー ボッチャは、卓球台を使ったり、ダーツのようなものを置いて点数を競うなど、オリジナルのルールで、スペシャルゲストとチームを作って対戦した。 ◆ウィルチェアーラグビー選手との交流 参加者からパラアスリートに競技や練習、車椅子のことなど様々な質問が投げかけられていた。		
参加人数	100 人（定員 90 人）		
参加者の声	・子どもたちにとっても貴重な体験になったと思う。 ・パラスポーツが広く知られ、たくさんの方がスポーツを楽しめる社会になれば素晴らしいと思います。 ・車椅子の人とやるととても楽しかったです。車椅子はやり方が難しいのかなと思いましたが、とても簡単で、やりやすかったです。 ・障害のある人でも運動ができてとても尊敬します！ ・とても車椅子が難しかったです。選手はすごい人だなと思いました。 ・みんな明るく前にすごしていてすごいと思った。 ・見ているのとやってみるのでは大違いでした。とても勉強になりました。		



事業名	義足体験
日時	平成 29 年 12 月 23 日（土）午前 8 時から午後 0 時 30 分まで
場所	都立小金井公園 （西東京市リレーマラソン会場内）
事業関係者	古畑俊男氏（義足ランナー）、鉄道弘済会（義足体験）
目的	障害者の体験を通じて障害者、障害者スポーツに対する理解を図る
概要	◆歩行用とスポーツ用の義足を装着し、歩行を行った 
参加人数	約 40 人
参加者の声	・ テレビでみる義足はとても簡単そうに見えるが、努力をしてリハビリしてようやく自分の足として機能しているんだと感じた。 ・ 義足体験は初めてでした。見ているのと体験するのとは大違い！貴重な体験ができてよかったです。 ・ 手助けできそうです。 ・ 障害の方の努力を感じました。 ・ バリアフリーの難しさを知りました。 ・ 娘がなんだろうと不思議そうに見ていて、体験させていただいて良かったです。障害のある人を身近に感じてもらえるようになってもらいたいです。

2 視察調査

期間：平成 29 年 11 月 19 日から 24 日まで

視察場所：オランダ（ロッテルダムほか）

詳細は、報告書参照

3 事業開始時期の意識調査結果（平成 29 年度の主な事業にてアンケート調査を実施）

回答 541 人

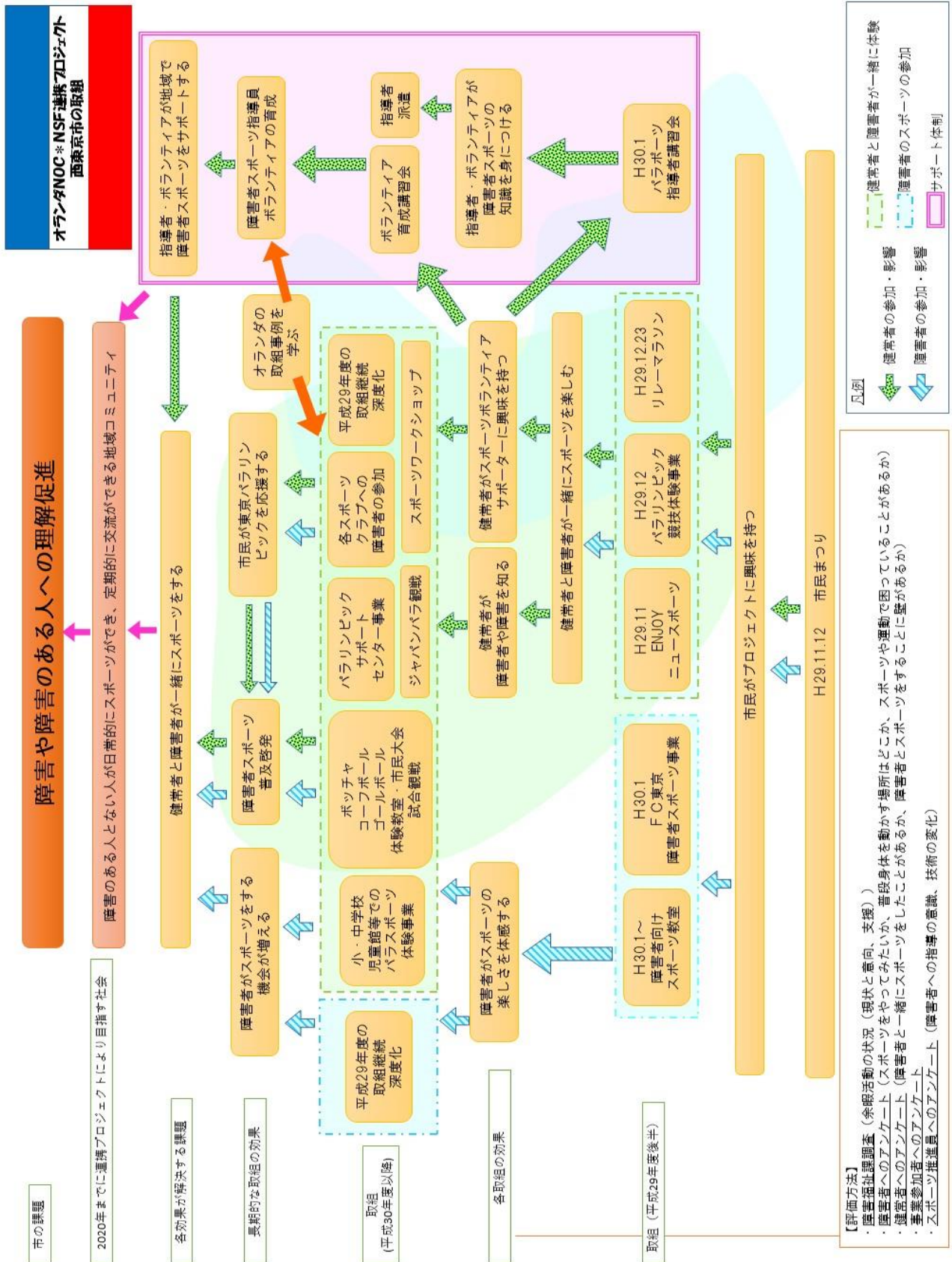
【内訳】

性別：男性 46.8%、女性 53.2%

年齢層：10 代以下 35.7%、20 代 2.5%、30 代 22.7%、40 代 25.2%、50 代 8%、
60 代 2.3%、70 代 2.1%、80 代以上 0.4%

障害者スポーツの認知度		
参加したことがある	19%	・ 参加したことがあると回答した人の中でボッチャが最も多い （ボッチャ 49、車椅子バスケットボール 23、五人制サッカー 11、車椅子テニス 8、パラ陸上 7、ウィルチェアーラグビー 6、バドミントン 6、アーチェリー 2、ゴールボール 4、柔道 2、卓球 6、デフテニス 2、イスホッケー、シットイングバレーボール、自転車、ティーボール、テコンドー、パラ水泳、フットボール、サッカーの練習） ・ 知っているとは回答した人を参加に繋げていくアクションが求められる。
知っている	74.5%	
知らない	6.5%	
障害のある人と一緒にスポーツをしたことがあるか		
ある	23%	・ 障害者スポーツの認知度とほぼ同様の結果である。 ・ 回答者のうち 5 人に 4 人は障害者と一緒にスポーツをしたことがないことから、障害者と健常者が交流できる場を設けたい
ない	77%	
障害者と一緒にスポーツすることに壁を感じるか		
感じる・少し感じる	34.4%	・ 壁を感じない人の方が多い ・ 壁を感じる理由を知る必要がある ・ 壁を感じない人が 2/3 を占めていることから、スポーツでの交流を早期に展開し、壁を感じていない人から先行して浸透を図っていく。
感じない	55.8%	
わからない	9.8%	
「共生社会」「ソーシャルインクルージョン」の認知度		
知っている	19.3%	・ わからない人が 2/3 を占めており、認知度は低いといえる。 ・ オランダ連携事業が目指す社会を理解してもらうことで、共生社会・ソーシャルインクルージョンを広めていく。 ・ 事業の中で知る機会を設ける
聞いたことがある	19.8%	
わからない	60.9%	
東京パラリンピックを観戦したいか		
ぜひ観戦したい	20.2%	・ パラスポーツに触れても観戦に直接つながるわけではないようである。 ・ 障害者スポーツの認知度と相関性が見られることから、認知度向上と組み合わせ、3 年後につながる機運醸成を図っていく必要がある。
機会があれば観戦したい	73.2%	
あまり観戦したいと思わない	6.6%	

4 平成30年度事業計画



事業名	パラスポーツ体験イベント
時期・頻度	春・秋 年2回
場所	スポーツセンター、きらっと
実施目的	・パラアスリートと一緒にスポーツを楽しむ ・健常者が障害者や障害を知る ・障害者がスポーツの楽しさを体感する ・市民がプロジェクトに興味を持つ
事業運営者・主体	スポーツ振興課、指定管理者
事業協力者・講師	パラリンピックサポートセンター、競技団体等

事業名	パラスポーツ体験教室
時期・頻度	通年（小中学校からの要望に応じて）
場所	小・中学校、児童館
実施目的	・パラスポーツを知る ・健常者と障害者が一緒にスポーツを楽しむ
事業運営者・主体	スポーツ振興課、指定管理者
事業協力者・講師	指定管理者、スポーツ推進員
対象者	小・中学生
内容	障害者スポーツの体験を通して、パラスポーツ、パラアスリートへの理解を深める。 特別支援学級の児童・生徒のスポーツ実施状況等を把握しながら、対象競技を決定する。 競技例：ボッチャ、コーフボール、ゴールボール、シッティングバレーボール、ニュースポーツ等

事業名	ENJOY ニュースポーツ
時期・頻度	年12回
場所	市内スポーツ施設
実施目的	健常者と障害者が一緒にスポーツを楽しむ・
事業運営者・主体	スポーツ推進員
内容	障害者スポーツやニュースポーツなど障害のあるなしや運動が苦手な方でもスポーツに楽しむ事業を引き続き実施する。 障害者の参加、障害者と健常者が交流できる場として活用する。

事業名	障害者スポーツ指導者育成講座
時期・頻度	年４回
場所	市内スポーツ施設
実施目的	指導者・ボランティアが障害者スポーツの知識を身につける
事業運営者・主体	スポーツ振興課、指定管理者、パラリンピックサポートセンター
対象者	スポーツ推進員（２０人） 障害福祉課登録のスポーツボランティア 新規のスポーツボランティア希望者

事業名	地域スポーツクラブとの連携
時期・頻度	年４回
場所	市内スポーツ施設、地域スポーツクラブ活動場所
実施目的	地域で障害者スポーツを普及するための環境整備
事業運営者・主体	スポーツ振興課、指定管理者
対象者	地域スポーツクラブスタッフ等
内容	地域スポーツクラブにオランダ連携事業の趣旨等を理解していただき、 障害者スポーツ教室や障害者が参加しやすい環境づくりを行う。

事業名	ジャパンパラ観戦
時期・頻度	年４回
場所	ジャパンパラ大会
実施目的	・ トップパラアスリートが戦う姿を見る ・ 健常者が障害者や障害を知る
事業運営者・主体	スポーツ振興課
内容	障害者スポーツを知るためにトップパラアスリートの戦いを応援するための観戦イベントを行う。 東京パラリンピック期待の選手も出場することが想定されることから、 東京パラリンピック機運醸成を図る。